



# PTA・学校連携による震災復興支援活動

## 日滝小学校

PTA役員のみなさんの、「東北の被災したみなさんを少しでも助ける活動をしたい。」そして、「子どもたちにとって活動自体がより良い学習の機会になってほしい。」という思いから、例年行われている日滝ふれあい祭りを復興支援の活動にすることが決まりました。

PTAが主体となり、学校・地域が連携して十一月十二日(土)に復興支援のフリーマーケットを行いました。フリーマーケットは、学年・学級単位でお店を開くことになり、一、二年生は学級単位、三～六年生は学年単位で、八つの店での開催となりました。全体運営はPTA本部役員と理事の皆さんが進め、学級会長部が主体となって販売品を集めて、子どもたちと一緒に売って売りました。フリーマーケットの実施で、学校が大切にしたのは、単に販売活動に参加するという点だけでなく、「被災した人たちの立場や気持ちに思いを寄せて活動を進めていく。」という点でした。

## 第215号

発行所 上高井教育会  
 発行人 上高井教育会理事長 長一社  
 編集人 原田武周 須坂新聞社  
 印刷所 山岸新

学校では学年の発達段階を考え、学習の計画を立てて進めました。六年生は、被災した子どもたちの作文集を読むことで、被災地の現状や同年代の子の気持ちを感じることができました。また五学年では、ボランティアとして被災地で活動した日赤奉仕団の方に来校していただき、支援活動の様子を聞きまし

た。子どもたちは、話を聞いたあと被災した人だけでなくボランティアとしての大変さ、継続することの大切さを感想にまとめました。



フリーマーケットの当日は、写真パネルや子どもたちの感想文なども掲示して学習の一端を参加者の皆さんにも見ていただき

ました。復興支援に気持ちを高め、もたちは、保護者の皆さんと一緒に、集めた

販売品や学校の畑で作った野菜(四年生)、手作りの手芸作品(六年生)などを一つでも多く買ってもらうと大きな声で呼びかけをしていました。その結果、収益金は約二十九万円になり、十一月二十七日には、全校児童の思いを込めた手紙と一緒に被災地の塩釜市へ届けることができました。(丸山 穰)

## グリーンアルムとの交流

### 仁礼小学校

仁礼小学校では、子どもたちが親しみを持って前向きに活動できるようにキャッチフレーズを設けています。「花と福祉と歌声の響き合う仁礼小学校」です。それぞれの取り組みは、総合的な学習の時間を主として、一昨年度から「花」は五・六年生、「福祉」は三・四年生が、主に取り組むことになりました。

一学期、三年生では総合的な学習の時間の取り組みとして、近くにある、老人福祉センター「グリーンアルムと交流をしよう」と声が上がりました。キャッチフレーズが子どもたちにも定

着している様子が伺えます。交流の内容について話し合うと、「じゃんけん大会」「おり紙」「手遊び」「虹の向こうへ」の歌、「紙しばい」等が出されました。

様々な話し合いの結果、「おり紙と歌」に決定しました。



実際の訪問では、おじいちゃんおばあちゃん達を前に、おじいちゃんおばあちゃん達もじもじしていました。

り、計画していた様に進められなかったりしましたが、なるべく子どもたちに任せました。予想外だったのは、折った折り紙を進んでおじいちゃんおばあちゃんに持って行って差し上げたり、遊び方を教えていたりする姿が見られたことです。

訪問後の反省では自分たちの活動について、「大きすぎる声で話してしまった」とか「おじいちゃんおばあちゃんももっと楽しめるようにすればよかった」という、相手のことを考えた反省がたくさん出されました。二学期に入って、その反省をもとに、二回目の計画を立てています。

このように、グリーンアルムとの交流を通して、相手のことを考えた学習をする機会となっています。(米山修一)

## 教育会だより

- 7.29 教育会講演会(メサ小ホール)
- 講師 自然写真家海野和男先生
- 演題 「昆虫から見た地球の環境」
- 7.23〜8.9 同好会夏期講習会
- 8.18〜19 日本連合教育会茨城大会(つくば国際会議場)「国際社会に生きる心豊かで創造的な日本人の育成」
- 8.30 研究推進委員会③
- 8.31 第4回理事会
- 9.8 第4回代議員会
- 9.9 第5回同好会
- 9.9 研究推進委員会④
- 10.5 第5回理事会
- 10.8 上高井教育研究会(相森中)
- 10.15〜16 都市児童生徒科学作品展(上高井郡役所)
- 10.21 第6回同好会
- 10.25 研究推進委員会、同好会会長会
- 10.31 研究推進委員会⑤
- 11.9 第6回理事会
- 11.10 信教全県研究大会(東北信A佐久)
- 11.11 信教道徳教育研究協議会(小布施中)
- 11.15 研究推進委員会⑥
- 11.16 郡公開研究会 中心講師 伏木久始先生
- ◎生活総合研究会 日野小
- 国語 高井小、社会 栗方丘小、墨坂中、10.28 算数 数学 常盤中、理科 栗方丘小、音楽 井上小
- 工 美術(相森中)、体育(保体日滝小)
- 家庭技術(相森中)、英語活動(英語墨坂中)
- 道徳特別活動(高山小、道徳(高山中)11.4 特別支援教育(豊洲小、健康教育(豊洲小)人権同和教育(日野小)
- 11.19 信州教育の日 第10回安曇野大会(豊科良館)「共に学びともに育環境づくりをめざし」
- 11.26 第7回同好会
- 11.28 第5回代議員会
- 11.29 信教全県研究大会(東北信B 飯水)
- 12.8 研究推進委員会⑦
- 12.19 第3回研究員会長会(研究企画委員会合同会)
- 12.20 第8回同好会
- 12.22 上高井教育会会報第215号発行

# 縦割り班の活動

## 井上小学校

井上小学校では、全校を二十八に分けた縦割り班を作り、一年間活動をしています。縦割り班では、なかよしタイム(縦割りの時間)と縦割り清掃の二つの活動を主に行っています。

なかよしタイムでは、班長を中心にして班ごとに遊びます。缶けり、大縄とび、ドッジボール、イス取りゲーム等、班長が考えた様々な遊びを行っています。家庭を汗をかきながら駆け回る楽しそうな姿や、高学年の子が低学年の子に譲ってあげる優しい姿などがたくさん見ら

れる時間です。

縦割り清掃は、学期に一回ずつ期間を設けて清掃を行っています。低学年にとっては初めての清掃をする場所が多く、清掃の仕方に困ってしまう子もいますが、高学年の多くの子が自然に低学年の子に清掃の仕方を教えたり、一緒にやったりすることができ、スムーズな清掃が行われています。さらに、いつも以上に清掃に集中し、一生懸命に取り組む姿を見せる高学年、その姿を見て一緒に頑張ろうとする低学年。お互いに

いい刺激を受けながら清掃に向かうことができるいい時間です。



この活動を通して、学年の枠を超えた交流をし仲間を増やすと共に、様々なことを学び合うとてもいい機会です。

(吉池 茜)

# 縦割りの活動特集

## 縦割りの活動で豊かなかわりを

### 豊丘小学校

本校では学校教育目標「心豊かで 考え深く たくましく」のもと、一人一人の子どもたちが「確かな学力」・「生きる力」を伸ばしながら笑顔で登校できる「楽しい学校」を目指して教育活動の充実を図っています。

なかでも特色ある教育活動では、全校百一名が一年生から六年生までの縦割り班をつくり、様々な活動に取り組んでいます。

その中のひとつとして「班遠足」があります。校区内にある



公園へ行き、班の友達と飯盒炊さんで食事を作って食べたり、遊んだりする活動です。高学年の子どもたちを中心として班毎に調理計画や分担を相談し、協力しながら活動する姿の中にたくさんの子どもの学びや育ちがあります。

こうした小規模校ならではの活動をもとに縦のつながりを大切にし、思考力や表現力、コミュニケーションの力などをさらに高めていきたいと考えます。そして子どもとともに豊かな学びの場をつくっていききたいと思えます。(児玉明代)

## 本校の中核活動 中学生議会 高山中学校

本校の総合的な学習のテーマは「故郷高山村と私。」これを受けて描く学級では、環境・文化・観光などの切り口から学習を進めています。そして中学生議会は、総合的な学習で得られた成果から出た疑問などを、村当局の協力を得て、中学生が議員となって質問や提言をするという学習活動です。過去には村内ゴミ袋の改訂や、中学校にソーラーパネルが設置されるなど、提言によって行政が動き、実現された例もあります。

今年も十月二十四日に村長をはじめとする村当局、教育委員会などの出席の中で十三回目の中学生議会が行われました。中学生からは、①一茶館とスパインのイメージキャラクターの提案。②村の防災体制、備蓄物資に関する提案。③村営のワイン醸造施設の建設、ワイン醸造実習を学ぶ人への奨学金制度の設立などを提案。④一茶にまつわる新たなお土産の提案。⑤Iターンによる定住者

を増やすための提案。⑥高山村の認知度調査を元に村名変更についての提案。が出され、これに対して村当局からは、一つ一つ丁寧な答弁をいただきました。



この中学生議会は、発表力や表現力など本校の教育目標に迫る大切な場として位置づけられ、また中学生が村の行政について理解を深め、わたしたちの高山村という意識を高めている教育活動となっています。さらに、地域住民の一人として、高山村をよりよい村にして行く、こうという意識を高める、本校の大切な教育活動です。

(北沢 秀忠)

# 運動会で感じたこと

## 豊洲小学校

豊洲は、昔から洪水に悩まされ続けてきた地域です。しかしながら、その水を含んだ肥沃な地にりんご作りが栄えたのも自然の恩恵といえます。そして、豊洲小学校は、そのりんご畑に囲まれ、同じく自然の恩恵を受けたグラウンドにはものすごい勢いで草が生い茂るのです。その量といったら、とても子どもたちの清掃や草取り作業だけでは追いつきません。夏休みが終わり、これから運動会に向けてがんばろうという時には、グラウンドは草原のようでした。PT

A作業、子ども、先生方による毎日の草との格闘の日々が続きました。

運動会当日、きれいなグラウンドで、思い切り走り、踊り、競い合う子どもたち。応援と親子種目で子どもに負けじと、動き回る保護者の皆さん。そして、何を思ったか、派手なピンクのポロシャツをそろえた豊洲の先生方。赤白引き分けに終わり、何もかもがうまくいった運動会でした。



(藤牧博和)

こそ、すばらしい運動会になるのです。代々の先輩が同じように草と闘いながら、築き上げてきた伝統行事といえるのではないかと思うのです。

# 「平和カンナプロジェクト」

## 東中学校

今年度東中では「平和カンナプロジェクト」に参加しカンナを植える活動を始めました。

このプロジェクトは、創作浄瑠璃作家の橋本保さんが、広島への原爆投下後わずか一カ月で、爆心地近くに力強く咲いたカンナの写真を見て感激し、「カンナの球根をバトンに平和と希望を繋ぐリレー」をしようと思

校生徒で植えました。クラスで分担して、水やりや草取りを行い、大切に育ててきました。夏休み明けの八月下旬には、カンナとサルビアの花が咲きそい

街道を真っ赤に彩りました。写真は全校草取りの光景です。

められたものです。

六月、生徒会緑化委員会が中心になり、十六年間続けてきているコスモス街道の花壇にカンナの球根とサルビアの苗を全



十月には、橋本さんを東中学校にお招きして講演会を開催しました。カンナと須坂市との繋がりが、カンナを通して東北の被災地に笑顔を届けたいと取り組んでいる支援活動についてお話をいただき、平和と復興への願いを伝えてくださいました。福島へ向かわれる橋本さんに、少しでも元気を届けられればと、東中生徒会が育てたカンナとメッセージを託しました。

(田幸 寛)

# 本校の宝⑤9 栗ガ丘小学校

## 「北斎巴錦(菊)」

本校では、総合的な学習の時間を「のびゆく時間」と呼んでいます。本校教育目標「たくましい体と豊かな心をもち自ら学びのびゆく子ども」がその由来です。「人やものとの関わりの中で、自分の願いや課題をもち、友の考えや学習・経験を生かしながら、問題を解決していくとともに、自分のことを振り返る事ができる子ども」の育成を目指しています。

「フィールドサーバーの活用による食育」、そして六年生は、小布施に伝わる「北斎巴錦」という菊の栽培に毎年取り組んでいます。

北斎巴錦は、その名の通り葛飾北斎が愛した菊と言われていました。江戸時代、参勤交代の途中小布施を訪れた加賀藩主前田利長がこの菊を見て名付けたそうです。以来大事に育てられてきましたが、戦争の影響で、一時絶滅の危機にさらされました。それを地元の巴錦愛好家によって守られ、巴錦保存会の三井隆一さんに受け継がれました。栗ガ丘小では、平成十三年に三井さんのご指導で巴錦を見事に咲かせました。それ以来、毎年六年生が巴錦を育てることで、ふるさと小布施を愛し、ふるさとの伝統を守っています。今年の六年生も、三井さんと関谷さんのご指導を仰ぎながら毎日欠かさず世話を続けました。「主人の足音で育つ」を合い言葉に、見事な花を咲かせることができました。育てた後は各自菊を持ち帰り、家で大切にします。これからも大事にしたい本校の宝です。

のびゆく時間には、各学年に栗ガ丘小ならではの活動があります。三年生は「ウォークラリー」、四年生は「小布施丸なす」、五年生は



(池内 博)

# 火ばら 談義

## 「クマンバチの奇跡」

宮島 秀樹

航空力学上は飛べないとされるクマンバチ(熊蜂)。しかしながらブンブン飛んでいる。これを見たところ航空学者が「これは突き詰めていけば究極の飛行物体ができるかも」と考え、クマンバチを調べに調べ上げます。しかし調べれば調べるほど……。究極の飛行物体どころか飛ぶことすらあり得ない方向へしか調査結果が進みません。コンピューターを使った計算でも、「クマンバチは理論上飛べない」という結論に至りました。……で、出した答えが……「クマンバチは自分たちが飛べ

## 理科実験と放射線、放射能

片桐 茂和

三月十一日の東北太平洋沖地震と津波、その後の福島第一原子力発電所事故は、私達に自然の計り知れない大きさと、自然に対する人間の非力さを教えてくれました。

十月二十八日、常盤中学校に須坂市役所の担当者が放射線量の測定に来校しました。放射線量計が手に入らず、やっと納品されたため、この時期になった



カット小山小 田中洋祐

ると信じているから飛べるのだ?」

クマンバチの姿を思い浮かべることが出来ますか?腹部が黒色で光沢があり、胸部背面に黄色の毛が密集している。あの大型のハチです。彼らの羽は、身体の大ささに比べると、極端に小さく、航空力学的には、あの図体・重さを支えて飛ぶことは不可能な大きさだそうなんです。けれども、彼らは自由に飛んでいる……。なぜ、極端に小さな羽しか持っていないクマンバチが飛べるのか……? 答えは一つ。彼らは、「自分は飛べる!」と信じているからです。(これだけ最先端技術が発達している現代でも解明



と思われま。放射線量計は五十万円もするそうです。くしくも中学校の理科では、来年度から放射線について扱うことになっています。しかしその扱いは、教科書では九行しかありません。考えてみると、これまでは全く扱われなかったというところです。高校の物理IIで初めてα線、β線、γ線が出てきます。

三十%以上の電力を原子力でまかなわなければ、産業も日常の生活も成り立たない状況にもかかわらず、核分裂反応やシー



(常盤中)

できていない(そうです)。もし、彼らが自分の羽の大きさを気にして考え込むばかりで、いっこうに羽を動かさなかったら、クマンバチは離陸することは出来ません。羽を動かすスピードや動かす回数を気にしてばかりいたら、重い体を支えて飛び続けることは出来ないでしょう。しかし、彼らは必死に(本能的に)羽を動かします。親バチも家族バチも友達バチも、みんな飛んでいる。だから、自分も飛べるはず!と信じて羽を動かしています。その時点で、羽の大きさなどは、もはや関係ありません。航空力学など机上の空論です。理屈・理論よりも「信じていること」の方が大きな意味を持っていることを、クマンバチは証明しているのです。自分の限界を自分で決めつけている人はいませんか?そんな時はクマンバチを思い出して下さい。航空力学的にみても、空を飛べるはずのないクマンバチが大空を舞う姿を。(相森中)

## ある日の出来事

中澤 光

二学期が始まり音楽会の練習が始まった。熱心な子は休み時間に教室や音楽室で自主練習をするようになる。我が家には自分が幼少の頃使っていた卓上木琴と鉄琴があり、それを子どもたちの教室練習用に提供することにした。楽器が身近にあることでパート以外の子どもを鳴らして楽しんでいる姿が多く見られた。

ある日クラスの男子が叫んだ。「先生大変だ。木琴のぼちが折れている!」教室内は騒然となった。どうしてこのような事態になったのかクラスに問うてみたが、どうもはっきりしない。「折れてしまった事は仕方ないが誰も正直に名乗り出ないのは非常に残念なこと。みんなの前で言えないのなら、後で言いに来て欲しい。」とだけ伝えた。

教師であれば、このような状況に出会うことはよくある。よくあるが残念ながら正直に名乗り出たケースはあまり多くないのが実情ではないだろうか。きっとクラスのいたずらっ子が遊んでいて壊し、怒られると思っただけで言いつけずにいるのだからと半ばあきらめていたその時である。

休み時間に一人の子が職員室に現れた。大人しくて真面目なSちゃんである。「どうしたの?」と聞くと、Sちゃんは

わっと泣き出し木琴のぼちの一件を話してくれた。

私は知っていた。彼女がクラスの誰よりも一番熱心に音楽会の練習をしていたことを。オーディオのパートだが、他のパートも熟知していて、一人で何役もこなしながら教室で練習していたことを。

まるで道徳の教材のような結末だったが、葛藤を乗り越え人として正しい行いを貫いたSちゃんの勇気に私の胸は熱くなった。子どもたちの心の成長が間近に感じられるこの仕事に携われることに改めて感謝したい。(高甫小)

## 編集後記

年の瀬が近づき、今年も残り少なくなってきました。今年、東日本大震災、県北部地震、近畿地方での大型台風災害など、多くの人々が大型災害に見舞われた年でした。各地で自分に今できること、必要なことは何かを考え、支援の動きが広まり、今なおそれは続いています。私達の教育活動の中でも様々な取り組みが報告されていますが、一つ一つが人として、生きていく上で大切な学びとなり、被災地の方々の力となったのではないのでしょうか。さて、ここに上高井教育会報第二一五号をお届けします。お忙しい中、玉稿をお寄せいただいた先生方に心より感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。(原)